



# なきごえ



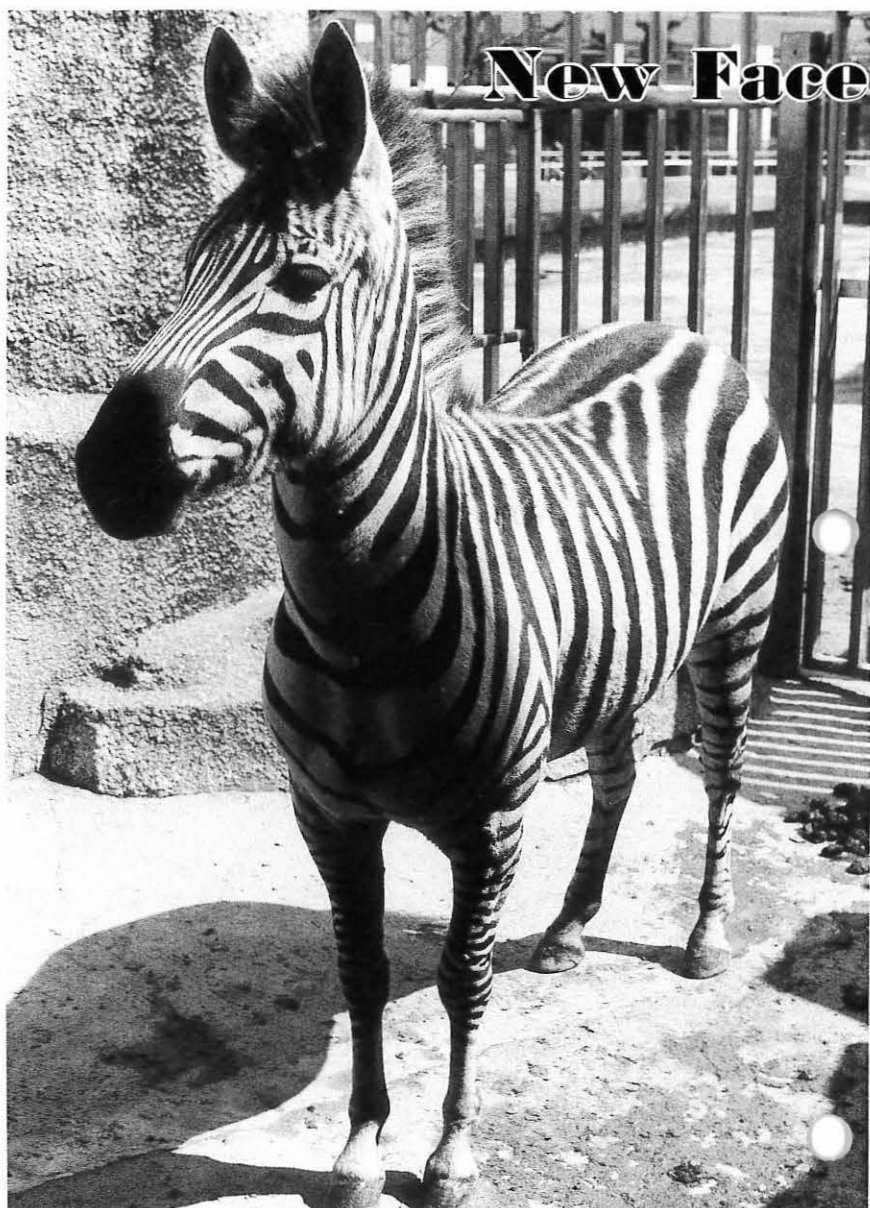
1996

6



大 阪 市  
天王寺動物園協会





(撮影：森本 委利)

- 2 — New Face グラントシマウマのメス、新顔登場!(森本 委利)
- 3 — 動物と私 川底のイモリ・カメラマン (内山りゆう)  
カバーウォッチング オウサマペンギン (堀内 智生)
- 4 — 『ニッポンツキノワグマの保護に取り組む』(板垣 悟)
- 6 — アカカンガルーの飼育管理を担当して思うこと (油家 謙二)
- 8 — グラフZOO 鳥のつばさ(翼) (大野 尊信)
- 10 — 獣医室から㊦ トカゲとポディーシャンプー (榎原 安昭)
- 11 — ZOO DIARY

### カバーウォッチング

オウサマペンギン  
ペンギン目 ペンギン科  
*Aptenodytes patagonicus*  
頭部の黒と橙黄色の紋様のコントラストが美しいペンギンです。趾の上に1個の卵をのせ、下腹の皮膚をかぶせて抱卵します。

(撮影：堀内 智生)

## ||||| 動物と私 |||||

### 川底のイモリ・カメラマン

**動**物と言っても、私はおもに水にかかわる動物を専門に撮影しています。そんな中で一番の専門分野は水の中の淡水魚です。海と違って川や湖は夏でも水温が低く、とても裸では長い間入っていただけません。よって防寒服の上から着る、ドライ・スーツと呼ばれる全く水の入ってこないスーツを着用します。川での撮影は海でのダイビングとは全く違う要素を持っています。と言うのは、川の中には絶えず流れがあり、これが思った以上に自由を奪い去ってしまうのです。目の前の岩にしがみつこうとしても毎秒数トンにも及ぶ水の流れは、いとも簡単に人を押し流してしまうのです。

**私**がよく足を運ぶ場所の一つに、紀伊半島の滝壺があります。大きな滝ほどそれ以上のぼれないため魚が溜まっているからです。水深は深いものだと7~8メートルにも達し、昼間でも薄暗く、岩がえぐれたウロの奥などはライトが必要になります。また、滝壺は上から落ちてくる水と、下から返してくる水とが複雑な流れを作り出し、



内山りゆうさん  
(生物写真家)

予想もつかないような破壊的な流れを生み出すこともあります。よって、水の中に浮いているよりも川底にへばりついているほうが安全といえます。私は体重が60kgですが、滝壺に入るときは約20kgのおもりを付けます。流れの下手からエントリーし、後はゴソゴソと川底をほふく前進を進みます。気分はまるでイモリカサンショウウオ!

水の中の生物というのは、水面の上の動きには非常に敏感ですが、同じ視点の生き物(たとえそれが私でも)にはあまり敏感に反応しません。非常に敏感と言われるイワナの仲間さえ、カメラに近付きすぎてピントが合わせられないことがありました。ようするに危害は加えないよ、きれいに撮ってあげるからねと思っていればそれは水の中でも通じるのだと思います。

**滝**壺の底から水面を見上げてみると、実にさまざまな生物たちのいとなみが見えてきます。流れの緩やかな場所を選んで群れているハゼの仲間、オオヨシノボリやルリヨシノボリ。岩の裂け目から顔をのぞかせているウナギやテナガエビ。激流とも思える流心に定位している、流れを読む名人のアマゴや、まるで水の中で舞い踊る天使のようなアユ。足元の岩の間からはオオサンショウウオが眠そうに出てくることもあります。どんな生き物達を見ても新鮮で興味が尽きることはありません。毎日、同じ場所に潜っていても必ず新しい発見があるものです。自然の中に身を置く、このことは動物、いや生物に携わる私にとってなくてはならない、最も大事なライフ・ワークと呼べそうです。

(うちやま りゆう)

### ◀ グラントシマウマのメス、新顔登場! ▶ ウマ目 ウマ科

今年4月3日、仙台市八木山動物公園から仲間入りしました。同園生まれの3歳です。シマウマは、サバンナシマウマ、ヤマシマウマ、グレイビーシマウマと大きく3種類に分けられ、本種はサバンナシマウマで、最も一般的な種類です。



# 『保護に取組む』ニホンツキノワグマの

## 板垣 悟 ツキノワグマと棲処の森を守る会

『野生のツキノワグマ』と聞いて、皆さんはどんなことを思うでしょう。恐ろしい、凶暴、人を襲う、何メートルもある巨大な動物、肉が大好き、などが多いのではないのでしょうか。童謡や玩具では親しまれていても森でクマに会ったら「クマが出た一助けて」と逃げ出すに違いありません。野生のクマは、ぬいぐるみと違うことは確かです。

でも本当にそんなに怖い動物なのでしょうか。実際、人間が戦ったならば、クマにはかきません。鋭いキバとツメにかかったら人間などひとたまりもないでしょう。でも、もともとそのキバは人間を咬む物ではありません。そのツメは人を傷つける物ではありません。キバや歯は身を守り、ドングリやクルミを砕き、ツメはそれらの実をはじめ、春の若芽、秋のいろんな山の果実を手に入れるために木に登る重要な道具なのです。

体だってそんなに大きくはありません。昨年、宮城県の調査で捕獲された3頭のツキノワグマの体重は大きい順から86kg、60kg、45kg



(撮影：高橋喜平)

でした。その昔は大きいクマが捕獲されていた様ですが、最近では150kgは珍しく、100kgを越えれば“大物”と言われ、普通は80kg前後で、少し体格の大きい人間程しかありません。クマといっても日本のツキノワグマは、アメリカやシベリアのヒグマ、グリズリーみたいに500~600kgもあるクマとは違います。でも大きいから凶暴ということではありません。本来、クマは山の奥や森で、その秘められた力をひけらかすことなく、静かに生きる動物だと思います。日本では新聞に『人がクマに襲われ死亡・傷害』などと見ると、いかにもクマはいつも人を襲いたがり、襲おうと人が山へ来るのを待っている印象があるかもしれませんが、そんなことはありません。クマは人が

怖いのです。人とクマとが出会ったら圧倒的にクマから逃げる人が多いのです。接近し過ぎると怖いからこそ襲ってしまいます。本当は臆病なのです。

食べ物かというと、春は木々の若芽、新芽、野イチゴなど、夏は昆虫、草本、クワ、タケノコ、ウワミズザクラ、畑のトウモロコシやリンゴ等、秋は畑の作物、昆虫の他に、ドングリ(コナラ、ミズナラ)、ミズキ、クルミなどの実を食べます。食肉目に属しながらコンスタントに哺乳類を捕らえて食べることはありません。採集したフンの中から出てくる動物の毛は、死んだ物を食べるケースが多いのです。ニホンジカの多い地方では動きのぶい子ジカを捕らえて食べたシーンも目撃されていますが、稀なケースのようです。一年を通して見てみれば90%以上は植物を食べているベジタリアンな動物と言っても過言ではありません。

そんなツキノワグマに絶滅の危機が迫っています。その姿を見ただけでハンターに追われ、銃口の的となり、チョット畑の農作物を失敬しただけで、ワナ(檻)に捕らえられ殺されています。

九州では絶滅が定説となり、四国でも10頭前後にまで減少し、本州でも地域的に絶滅した所も多くあります。このままでは姿を消す日も近いでしょう。

日本という大地に私たちと共に生きるツキノワグマの生息地は、人間優先の開発がさかんとなり棲処となる森を減少させています。

### ◎クマを守るということ

近年、環境問題に高い関心を集めながらも、自然林の伐採やリゾート開発、道路整備はやむことがありません。昔から日本人にも馴染み深い動物として親しまれてきたツキノワグマの生息域は、今も破壊され続けています。ツキノワグマは広大な自然林がなくては生きて行けないのです。開発行為は彼らにとって、生か死かの大問題です。ツキノワグマにこれ以上のダメージを与えてはなりません。まず森を守る事がクマを守ることです。

森を追われ、人里へ接近しては農作物に誘引されて被害をもたらす事もあり、林業、養蜂、養魚への被害も著しく、発生すればそれが



被害にあったデントコーン畑

相当な被害額に及び、農林業の人たちにとっては経済的なダメージを受けるだけでなく、耕作意欲や生産意欲が低下することにもなります。その対策として有害獣駆除として捕獲。結果は生命を断たれるのが実状です。しかし、『日本の動物層の

重要な構成要素』であるツキノワグマをニホンオオカミの二の舞にだけはさせてはならないと考えます。

被害についても駆除、除殺のみに重点を置いたため、生息数の減少が見られます。『国際的な種の保存意識』が高まる中では、地域的な激減、劣化や絶滅は、小規模であれ大きな問題です。

本来の生息すべき森の減少が、人里接近や生息数減少の最大の原因であると認識できるものの、現状を鑑みると、ツキノワグマを含めた鳥獣保護行政の重要性に、多くの人々の認識の不足と関心の希薄さが、鳥獣行政や森林の保全と回復を行なう現状に様々な障害となり、共存策は前進していないのが現実です。

加えて、『都市中心、都会発信の保護意識の高まり』や『愛護』『保護』『保護管理』の混同にも大きな問題を抱えている事も事実です。

『クマを守る』『クマを救う』とはどういうことでしょうか。

『ある1頭のクマの命を守る・助ける』ということともう一つ、『クマを絶滅の危機から守る・救う・助ける』という2つがあります。

どちらも大切なことです。しかし、現実を考えると、クマの被害は存在して、困っている人もたくさんいます。そのことについても何かしらの対策をしなければなりません。人とクマが、どう折り合いをつけるかという模索も必要です。

生物的に見て、日本列島に人間が1億2千万人が住み、ツキノワグマは環境庁の発表で約1万頭。種の重みとしては、人間よりクマの方がまちがいに重く、しかし、「人間よりもクマの方が大切だ」と言ってしまうと極論ととらえられ進展しなくなってしまいます。人が適正生息数を越えているのは分かっていますが、やはり人間中心に考えざるを得ない社会の中で、クマの減少・絶滅をどう考えてゆくにクマの将来はかかっています。

1頭1頭の生命は何にもかえがたい大切なものですが、「1頭たりとも殺すな」とは言えない状況があります。



クマ親子にも生きる権利がある。(撮影：時田克夫)

これまでの狩猟・有害駆除を続けていたなら、クマは激減するということは皆が知っています。ならば、対策を変えて行かなければなりません。

被害の防除対策、救済に力を注ぎ、捕獲や除殺のあり方の見直し、生け捕りして山へ返す方法の

推進などなど、今までとは違った取組みをするという課題は山積みです。

多くの市民と行政とが一体となって行なわなければならないことです。

すぐに出来る活動は何でしょうか。それは、ツキノワグマに関心を持つようになることです。たくさんの人が関心を持つ事こそ減少や絶滅を回避して行くのだと思います。

例えば、ある虫が絶滅しようとしていても、誰も関心を持たなければ、人知れず滅ぶでしょう。滅んだ事さえ知らずにいるかもしれません。

関心を持てば知りたくなります。クマという動物の事、生息の森、痕跡、食べ物、被害、捕獲状況、繁殖、そして滅びつつあること。そんな考えで私たちの活動も続いています。

生息地の踏査。足跡、ツメ跡、クマ棚、そしてフンを探します。痕跡を地図に記録し、フンは採集して調べます。痕跡の観察会やいろいろな集会も行ないます。



クマのツメ跡

県庁や市役所、地元猟友会へ足を運び、クマにとって良い方向へ進めてくれるようお願いすることも欠かせません。

こうした輪を広げてゆくことが大切です。啓蒙活動は重要な『守る活動』だと思います。

行政にも大切な仕事があります。人材の育成や教育。国民の願いや訴えに反応できる資料の整備や能力の向上。ある種の生物が絶滅寸前などにならないと動き出さないような行政では困ります。国民全体がツキノワグマの保護を、真剣に考えるときがもう来ているのです。

みんなで共存策や将来のあるべき姿を考え、多くの問題解決の糸口を探って行きましょう。

みなさんの知恵をお貸しください。

最後に…その地域のクマが絶滅、いなくなつたとしても、数の多い地域から移入という意見には反対です。そうなれば、もしそこからいなくなってしまったとしても、どこかから持ってくればいいじゃないかという考えが先に立って、絶滅ということを実際に考えなくなります。種の絶滅は深刻に考え、反省する姿勢が大切です。このことは、クマに限らず、他の生物も同じです。

(いたがき さとる)



# アカカンガルーの飼育管理を担当して思うこと

今回は、平成6年5月から飼育係として初めて動物飼育を担当し、現在までの約2年間のアカカンガルー飼育経過についてお話しします。

## § はじめに

アカカンガルーは有袋目、カンガルー科に属する動物で、オーストラリア内陸部の乾燥した草原などに生息しています。カンガルーの仲間でも最も体が大きい部類で、また最も広く分布しています。普通、雄2～3頭、雌10頭ほどの群で生活しており、夕方から夜間にかけてと明け方頃に草や木の葉や樹皮等を採食し、昼間は寝転がって休息をすることが多いとどちらかと言うと夜行性の動物です。当園でも昼間、展示場に出ている間は、全頭が仲良くのんびりと寝ていることが多く、なかなか入園者に動き回る姿を見せないで、「カンガルーって本当にジャンプするのかなあ？」という声がよく聞かれます。一方、大変臆病な面も持っており、ちょっとした物音や私の動作などで1頭が驚くと、それにつられ全頭が興奮してパニック状態となり、展示場を飛び回って壁やフェンス等に激突する事故が起きたりします。ですからカンガルーに近づく時は声をかけながら、ゆっくりと動かなければなりません。



昼間は寝転がって休息していることが多い

## § 飼育環境

現在のカンガルー舎は1967年にラクダ・ラマ舎と合わせて建設されました。建設当初はラクダ・ラマ・ハイイロカンガルー・スナイロワラビー・キョンが飼育展示されていたが、数年前にアカカンガルーの展示と繁殖を目的とした獣舎整備を行いました。現在はラクダ、ラマ、ハイイロカンガルーとアカカンガルーを展示しています。展示場と寝室の見取り図は図-1のようになっています。展示場の面積は約190㎡で、雨よけのために二つのシェルターが設置されています。寝室はハイイロカンガルー用に2部屋、アカカンガルー用に4部屋、そして予備室が1部屋で合計7部屋に分れています。アカカンガルー用の寝室①の広さは約8㎡、寝室②③④および予備室⑤の広さは約4㎡です。予備室はふだんは使用せずに空部屋

となっています。例えば、新しいカンガルーが入園してきた時、いきなり他のカンガルーと同居させたりすると闘争が起きたりするので、新しく来た方を予備室に入れ、金網越しにいわゆる「見合い」をさせて他のカンガルーと慣れさせてから一緒にします。この間に餌の食べ具合や、病気の有無等も調べます。また病気にかかったカンガルーを他のカンガルーから隔離して治療するときなどにも予備室を使います。

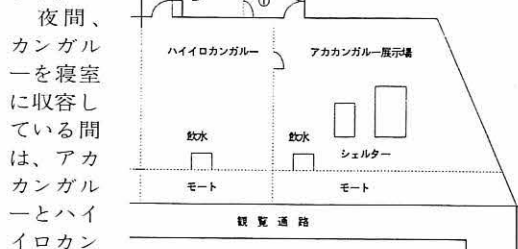


図-1 展示場と寝室

の部屋を仕切る扉以外は開けておき、カンガルーが寝室内を自由に往来できるようにしています。また、寝室の天井の高さが約2mと低いので、夏は寝室内の温度が非常に上がるので、室温が30度を越え出すと夜間は寝室と展示場の間の扉を開けたままにしておいて、カンガルーがいつでも屋外に出られるようにしています。なぜこんなに天井が低いのかといいますと、カンガルーはジャンプ力がとても強いだけに、狭い寝室でもやみにジャンプすると、他のカンガルーも巻き込んで壁に激突し大怪我をする可能性があるため、あえて天井を低くしてカンガルーを「ジャンプが出来ない」という心理状態にさせるためなのです。

暑さ対策としては、その他に寝室④にある換気扇を動かして、少しでも温度が下がるようにしています。冬は遠赤外線灯を天井に付け、また寝室の各窓には網が張ってありますがこの上からアクリル板を張り、寒風が入らないようにします。あと床がコンクリートなので底冷えを防ぐため、各部屋に木製のスノコを敷いています。

## § 飼育個体について

現在、雄2頭、雌2頭の計4頭を展示しています。それぞれ、ジミー、カンタロウ、シンディ、ヤヨイと名付けています。ジミーはオーストラリアのメルボルン動物園から1992年に当園へやって来ました。この時一緒にエリーという雌が来ましたが、残念ながらエリーは今年の11月に急性肺炎

で死んでしまいました。しかしこの2頭の間には昨年4月に子供が生まれ、この子供が現在のカンタロウです。それと1994年に神戸市立王子動物園から雌がやって来ました。これがシンディです。ジミーとシンディの間にも子供が出来、シンディのおなかの袋が、中で子供が動くたびにゆれるほどになっていたのですが、残念ながら今年の1月に母親の袋から出て寝室内で死亡しているのが発見されました。おそらくシンディにとって初めての子供で子育ての経験がなかったため何らかの原因でシンディが自分で子供を出したか、それともこの当時は雌がシンディ1頭のみであったため、ジミーの雌を求め行動がシンディ1頭に集中してしまい、シンディがそれから逃れようと暴れたときに子供が袋から出てしまったのではないかと考えられます。どちらにしても雌は複数の方が安定した繁殖が得られると思います。そこで今年の3月にさらに1頭の雌が新たに加わりました。これがヤヨイです。ヤヨイはまだ母親の袋から出て1年もたない子供なんですけど、この先もっと大きくなって繁殖に貢献してくれることと思います。またカンタロウもまだ若く、ジミーとの闘争は今のところないのですが、いずれ大きくなるにつれて、雌を求めてジミーと闘争が起きることも考えられるので、その前に出さなければならぬと考えています。



錠塩をなめる

## § 飼料について

アカカンガルーは夕方に寝室に収容してから室内で餌を与えています。餌の内容は青草と、キャベツ、ニンジン、サツマイモ、リンゴです。そしてミネラルとして昼に展示場で錠塩をなめさせています。その他展示場では、コアラに与えているユーカリの枝を週に3～4回くらい与えています。その理由は、本来アカカンガルーは草等の他に樹木の葉や樹皮等も好んで食べる性質があり、展示場にいるとき、展示場の植木を齧ったりすることがあるので、これをやめさせるためです。植木の幹の部分にはカンガルーが届かない高さまで金網を張って齧れないようにしているのですが、前趾で土を掘り起こして土まみれの根を齧ったりします。実はこれをする、土の中に存在する放線菌という病原菌が体内に侵入する可能性が高くなるのでこれによる病気を予防する意味でもユーカリの枝を与えています。また、樹皮等の繊維質を多く含んだ物を食べると、口の中の歯垢や食べかす等が除かれ清潔になるらしいのでそういう点でも有効だと思われ、カンガルーはオーストラリアの動物なので、同じオーストラリアに沢山生えているユーカリを与えているわけです。このユーカリという木には、多少の毒が含まれており沢山与えると毒の影響が出てくるかもしれないので、おむね1日おき位に与えています。ユーカリと一

口にいてもその種類はかなりの数にのぼり、そのうち当園でコアラに与えているのは16種類ですが、アカカンガルーに与えているのは年間を通じて全部で



ユーカリを食べる

12種類になります。種類によって葉をよく食べるもの、枝の皮をよく食べるもの、葉も枝の皮もあまり食べないものなどバラツキがあります。またユーカリは日中に展示場で与えているので、夏は暑すぎるのかどの種類もほとんど食べなくなります。

## § 病気について

カンガルーがよくかかる病気に先ほど述べました放線菌症と言う病気があります。この病気は、カンガルーの仲間では不思議と多く見られ「カンガルー病」とも呼ばれており、この病気にかかる遅かれ早かれ大抵の場合は死に至ってしまいます。この病気は、土の中に存在する放線菌が口の中にある傷等から体内に侵入し、化膿を起こして餌が食べられなくなり、やがて衰弱して死んでしまうケースが多いようです。この病気に関しては治療法も予防法もまだ確立していませんので、いろんなことを試していき、原因と思われるものを一つ一つ無くしていくしかないと思います。今、私が考えているのは、ユーカリを与えるなどの食事改善と、カンガルー舎全体の衛生面を向上させることの2点に力を入れることです。食事改善は、ユーカリのほか繊維質の多い青草を多く与えたり、口の中を傷つけたり食べかすが残ったりする可能性のある乾草や敷きワラ、パン等を与えないようにしています。衛生面の方では、展示場の土の消毒と入れ替えを実施する一方、寝室をこまめに水洗いをして、各部屋に敷いてあるスノコが汚れてきたら予備のスノコと交換するなどして、出来るだけ清潔を保つようにしています。そのほか、カンガルーは湿気に弱いのですが、カンガルー舎内は狭いことから湿気が高くなるので、この点についてもその対策を考えていかなければならないと思います。

## § おわりに

「カンガルー病」はこの動物を飼育する者にとって避けて通れない重大な病気であることは間違いありません。現在、実施している予防法はまだ期間が短く、効果があるのかどうか今のところ分かりませんが、これからも続けていきたいと思っています。また新しい方法が見つければ積極的にそれを取入れ、より確実な予防法を作りたいと考えています。そうしてカンガルーを健康に保つことが出来れば、その分繁殖の機会も増えるわけで、従って繁殖の成功率も高くなると思います。

(飼育課：油家謙二)



**大**きなつばさ(翼)をもって大空を自由に飛びまわる鳥の姿は、古来から人間のあこがれの的でした。しかし、翼にもいろいろな形態があります。今回は翼の形態からその鳥の暮らしを探ってみましょう。

(飼育課：大野尊信)



## ヒクイドリ

飛ぶためのつばさはありませんが、ヤリのように細長いものが両側にありこれが翼の一部なのです。プッシュの中を移動するのに何かの役にたつのでしょうか。



## ワシミミズク

夜行性のフクロウの仲間は羽ばたく音が静かです。その秘密は写真右側のワシミミズクの羽根のようにつばさの風切り羽根の先端部分が櫛状にぎざぎざになっているからで、新幹線の騒音解消対策のヒントになりました。



朝日を受けて、得意のシルエット。

## ヒメコンドル

体長と比べ巾広くよく発達したつばさ。上昇気流にのり、はるか彼方の高さまで上がって大空を悠然と帆翔(はんしょう)します。



## フンボルトペンギン

このヒレのような翼で「空を飛べ」というほうが無理というものでしょう。しかし水中では力強く水をかいて、猛スピードで”飛ぶように”泳ぐことができます。

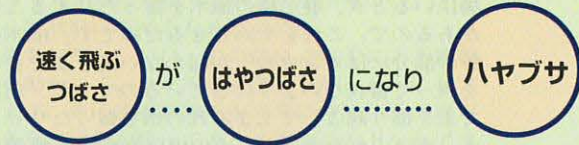
## オナガキジ

矢のように直線的な飛び方をするつばさ。つばさは体の割に小さく、従って激しく羽ばたき、茂みから他の茂みへ直線的に飛んですばやく身を隠します。



## ハヤブサ

上空から猛烈な速度で急降下できるつばさ。名前の由来は



## シュバシコウ

ヒメコンドルに負けない位に巾広く発達したつばさを持ち、大陸を南北に渡っていきます。天王寺動物園の大ケージ内では飛ぶ姿がまのあたりに観察できます。



# 獣医室から

67

## 『トカゲとボディシャンプー』

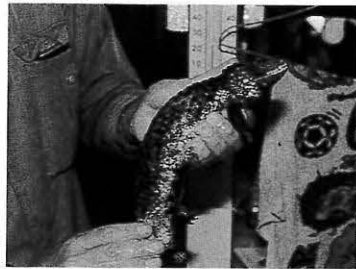
「最近の爬虫類はたいへんきれい好きで、お風呂に入ってボディシャンプーで体の隅々まできれいに洗っています。」と言うわけではありません。トカゲに寄生しているダニを駆除するためにボディシャンプーで体を洗っています。

ヘビやトカゲには意外と多くのダニが寄生しています。検疫でダニを見つけた場合には、駆除してから展示します。しかし、検疫では見つからなかったのに、展示室やバックヤードの予備ケージで飼育しているうちにダニが発生したトカゲが3種類ありました。

今までダニの駆除には有機リン系の殺虫剤を使っていましたが、あまり効果がないうえに、トカゲ自身にも毒性があるので、他の方法を捜したところ、中性洗剤につけるとダニが比較的早く死ぬことがわかりました。そこで、ボディシャンプーを使って体を洗い、ダニを殺すことにしました。そのトカゲたちの治療経過をお話しましょう。

まず、最初にダニを発見したのはオーストラリアの乾燥地帯に住むマツカサトカゲで、大きさが1mm足らずの小さなダニが寄生しているのが見つかりました。後に専門家に調べてもらったところ、本来ニワトリや野鳥などに寄生するトリサンダニというダニでした。家の中にも入ってきて人を刺すことがあるダニですので、閉鎖された飼育環境で、換気が悪いことなどが原因になり発生したものでしょう。

1週間に1回ボディシャンプーで体を洗い、さらにダニを殺す効果のある駆虫薬を体に塗ったり、飲ませたりする治療を行ないました。また、ボディシャンプーで治療中のマツカサトカゲ展示室や飼育ケースに卵を産みつけている可能性があるため熱湯で消毒しました。しかし、なかなかダニの撲滅は困難で半年あまりかかって、やっと撲滅することができました。幸い、マツカサトカゲは大変おとなしいトカゲなので、ボディシャンプーで体を洗っている間も気持ち良さそうにじっ



としているので助かりました。

不幸にして、どこかにダニの卵が残っていたのか半年後に再びダニが発生しましたが、今度は発見が早く、寄生数も少なかったことから、前回と同じように治療したところ、3週間でダニはいなくなりやりました。

次にダニが発生したのは、アフリカに生息しているサバンナオオトカゲでした。調べたところ、雄の背中には5つのキラキラ光る点状の模様があることから、日本にも何種類かいるキララマダニの仲間であることがわかりました。しかし、日本で発見されたものの中には該当するものがなく、おそらく、現地から持ち込まれたものと思われる。このダニは比較的大きなダニで3mmぐらいあり、雄と雌で形が異なります。

成長段階の異なるいろいろな大きさのダニが、鱗の間やほては、鼻の穴の中までびっしりと寄生していました。このダニは、しっかりとトカゲの体にくっついて



サバンナオオトカゲに寄生していたキララマダニの仲間 (左、右)

いるため、ピンセットで摘んで、引っ張るとダニの体がちぎれてしまうほどでした。1匹ずつピンセットで摘み、左右に揺すって慎重にトカゲの体からはずした後、マツカサトカゲと同じようにボディシャンプーで洗い、薬を体に塗り付けて治療しました。このトカゲはマツカサトカゲと異なり非常に攻撃的で体を洗う間、じっとしておらず大変苦勞しました。

最後は北アメリカの乾燥地帯に住むアオハリトカゲに発生した赤くて小さいダニです。鱗の間にびっしりと寄生しており、真っ赤な色をしているので、血を吸っているように思われました。前の2種類と同じようにボディシャンプーとダニを殺す薬を体に塗る治療を行いました。しかし、何回かボディシャンプーの治療を行いましたが、なかなかダニの撲滅はできませんでした。そこでダニの種類を調べてみると動物に寄生するダニには該当するものがなく、非寄生性のダニであると思われましたので、そのまま放置することにしました。その後、アオハリトカゲにそのダニはくっついたままですが、特に目立った害はないようです。

— のようにダニの治療にはたいへん時間がかかり、手間がかかりますが、シャンプーを終えてすっきりした顔をしたトカゲたちを見るとその苦勞が報われます。

(飼育課：榊原安昭)

4/1. アムールトラが生まれました。

キジ舎のマダガスカルシャコが今季初めて産卵しました。

4月2日 昨日生まれたアムールトラの人工哺育を始めました。母親が面倒をみないためか、大変衰弱していたので、お湯で温めた後人工哺育器に入れました。性別はメスでした。



4月3日 グラントシマウマのメスが1頭入園しました。仙台市八木山動物公園からブリーディングローン(繁殖目的の貸借)でお借りしたものです。検疫終了後、飼育個体と同居させる予定です。



爬虫類生態館「アイファー」でヒキガエルがふ化しました。

4/6. キジバト2羽、ドバト1羽を保護しました。

4/7. イフトビベンギンが今季初めて産卵しました。

4/8. マレージャコウネコが生まれました。巣箱の中で出産したので、頭数は不明です。アカコンゴウインコが今季初めて産卵しました。

チュウゴクオオカミの健康診断(体重測定・血液検査など)を行いました。

4月9日 ドリルが1頭生まれました。過去2回の出産経験を活かし、十分な出産準備体制を整えていたので、今回は母親はちゃんと赤ちゃんを抱き、授乳もしています。



4/10. アムールトラの人工哺育は順調で、この日赤ちゃんのまぶたが開きました。

4月12日 さる2月から3月にかけて4個産卵していたニホンコウノトリのヒナが4羽ともふ化しているのを確認しました。ニジキジが今季初めて産卵しました。



## 今月もおもしろ情報満載

# ZOO DIARY

4月13日 サル舎でブラッザゲネオンが1頭生まれました。母親は出産経験が豊富なので、当日から一般公開しました。



4/15. 保護・治療していたキジバト2羽とドバト1羽を自然復帰させました。

シマハイエナの健康診断を行いました。

4/16. 4月9日に生まれたドリルの赤ちゃんを一般公開しました。

4/20. ヤマシギを1羽保護しました。

4/21. 春の動物と花のフェスティバル'96を開催しました。5月6日までの休日に様々なイベントを行いました。

ヒヨドリ2羽とドバト1羽を保護しました。

4/23. ドバト、アオサギ、ツグミを各1羽保護しました。

4/25. 4月20日に保護したヤマシギが元気になったので、自然復帰させました。

4/27. チュウシャクシギを1羽保護しました。

4/28. スズメを1羽保護しました。

4/30. “鳥の楽園”でシュバシコウがふ化しているのを確認しました。

ニホンザルが今季初めて生まれました。

## ■お知らせ■

●第22回サマースクール受講生を募集します。

募集期間：6月1日(出)～6月30日(日)

応募方法：往復ハガキで申し込んで下さい。

対象：2日間連続で参加できる小学4、5、6年生

開校日時：第1組 7月20日、21日

第2組 7月22日、23日

第3組 7月24日、25日

(詳しくは06-771-8401へお問い合わせ下さい。)

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間とは？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー

### むしくらしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち250種を紹介。

### ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

## 新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



### カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理するとともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉

会費/年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作  
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー  
**500円**

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

ひと息入れよ。  
ジョージアで、

あぁ、  
男のやすらぎ。  
ジョージア

Enjoy  
**GEORGIA**

**鳥獣輸入**  
全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

**有限会社 吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!

園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 30円

動物園内での  
お食事、  
ご休憩は

動物園内.....  
**中央売店**  
TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110

.....LOTTE.....  
みんな大好き  
**エアラのマテ**

〈チョコレート〉      〈ストロベリー〉





# 雪印 つぶよみ フルーツ ヨーグルト



●ライチミックス ●ストロベリー ●アップル ●ピーチ ●フルーツミックス

おいしさは、産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル——●ライチミックス  
 国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って——●ストロベリー  
 日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の——●アップル  
 桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で——●ピーチ  
 アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の——●フルーツミックス

お待たせ  
新発売

希望小売価格・税抜 **各100円**



一日  
愉快地  
たのしめる

◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。



**久竹娛樂株式会社**  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1996年6月10日発行(毎月10日発行)第32巻 第6号 (通巻370号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所  
 発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 伊東重朗  
 印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
 電話 大阪 (06) 771-0201  
 振替口座 00930-2-37823

編集委員

樽本 勲 / 馬詰好文 / 増野悦敏 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 長谷川敏昭 / 落合正彦 / 宮下 実 / 榎原安昭 / 森本委利  
 高橋雅之 / 中上正幸 / 堀内智生 / 小林崇宏 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 土谷正道 / 村上勇一 / 仁田原洋